

第6部 2024年度の環境に関する取組みについて 豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や要望をまとめています。発行時期の都合上、本意見は2年後の施策に反映されます。

取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分け、記号を付けています。また、市については、主な関係課を載せています。 記号： 市 市民 事業者

新規意見については記号を付けています。 記号： 新規

※一部2025年度の情勢を受けてまとめたものを含みます。

(1) 「目標とする姿」ごとの取組みについて

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

	【主な関係課】
<p>新規 自伐型林業の推進は、森林整備に関わる担い手の確保や人材育成への解決策の一つになると考えますが、林業関係者や地域おこし協力隊以外の地域住民も、この取組みに関わることが可能となるよう方策を検討してください。</p> <p style="text-align: right;">市 市民 事業者</p>	農林水産課
<p>新規 竹林整備については、過去に「竹の成長が早いため対応が難しい」と回答をいただきました。兵庫県内の他の自治体（丹波篠山市、神戸市、宍粟市など）が竹粉碎機や無煙炭化器などの貸出を行っており、粉碎機などの貸出があれば、地域住民も森林の整備に参加しやすくなると考えます。豊岡市においても同様の取組みの実施を検討してください。</p> <p style="text-align: right;">市</p>	農林水産課
<p>新規 山林は面積が広く、市民の目に触れる機会も多いため、森林整備事業への関心を高めるとともに、事業に対する誤解などを招かないよう、市ホームページ等を活用し、事業実施箇所や事業内容を公開するなど積極的な情報発信を検討してください。</p> <p style="text-align: right;">市</p>	農林水産課
<p>適切な森林の管理が獣害対策などにもつながるため、間伐などの管理方法を工夫しながら、森林との共生について引き続き知見を広めてください。</p> <p style="text-align: right;">市 事業者</p>	農林水産課
<p>分収造林問題については、防災の面等からも管理が継続されることが求められるため、管理が放棄され森林が荒廃しないように今後の動向を注視し、必要に応じ対応策を検討してください。</p> <p>【分収造林問題】 分収造林事業とは『民有の山林を借り受けて植林し、伐採後に土地所有者と収益を分け合う』というものです。 兵庫県の分収造林問題については、第2部 P7に記載</p> <p style="text-align: right;">市 市民 事業者</p>	農林水産課

目標像②里山が様々に利用され、関わる人が増えています

【主な関係課】

<p>新規</p>	<p>シカなどの野生動物による苗木の食害を防ぐため、公的機関が行う新植並びに主伐・再造林事業等において、苗木を保護するための「幼齢木ネット」を設計（仕様書）に盛り込み、事業の推進を検討してください。</p> <p>【幼齢木ネット】 苗木を野生動物から守る防除チューブで、トウモロコシから作られた環境にやさしい生分解性の繊維を使用した防護ネット。</p>	<p>農林水産課</p>
<p>新規</p>	<p>クマの出没により、里山へ安心して近づくことができない状況があります。市は、出没状況や駆除対策など随時発信するとともに、市民や事業者に対しても、被害を未然に防ぐための行動や心構えなどを広く周知し、行政と市民が一体となって安全な生活環境を守るための働きかけを行ってください。</p>	<p>農林水産課</p>
<p>新規</p>	<p>森林ツーリズムの主催者の高齢化が進み、事業の継続が困難になっている現状があります。取組みの維持のため、地域コミュニティ同士の連携や相互に支え合うような仕組みづくりや柔軟なサポートなどを検討してください。</p>	<p>地域づくり課 各振興局地域振興課</p>
	<p>里山に気軽に触れることのできる機会を作り、興味や関心をより多くの方に持ってもらえるような活動を行ってください。</p> <p>様々な民間の企画主催者が現れています。情報を収集し取組みを検討してください。</p>	<p>農林水産課 コウノトリ共生課</p>
	<p>バッファゾーン整備による獣害対策の効果について周知を行い、有害獣の駆除だけでなく、人と動物の住み分けによる共生という選択肢についても知見を広めてください。</p>	<p>農林水産課</p>
	<p>有害鳥獣駆除後の適切な処理が困難な課題となっています。駆除後の処理や加工利用を行う施設の整備への支援が求められます。引取り業者の現状を把握するとともに、事業者による肉や皮の有効活用に向けた具体的な研究を進めてください。</p>	<p>農林水産課 環境経済課</p>

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

新規

耕作放棄地を活用したビオトープの取組みは、生物多様性の保全において重要な役割を果たしています。引き続きビオトープを維持できるように積極的な支援と取組みを求めます。

市 市民

【主な関係課】

農林水産課
コウノトリ共生課

学校給食での地場産野菜の利用目標は5年連続で達成されていることから、さらに目標値の引上げを検討してください。

地場産物への理解を深め、消費者へ地産地消の意識啓発と利用促進を行ってください。

市 市民 事業者

農林水産課
教育総務課

関係機関との連携による耕作放棄地対策をより一層進めるとともに、短期間だけ耕作を引き受けてくれる事業体との連携や、兼業農家への支援拡充、耕作放棄地の再開拓への支援等、新たな取組みが求められます。

市 市民 事業者

農業委員会
農林水産課

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

川の漁業について、組合の活動も含めて、川の恵み・豊かな自然など、地元農産物同様にPRしてください。

海の水産資源保全についても、資源保全を目的とした漁礁設置が再び行われるようになった事など、市民に周知してください。

市 事業者

【主な関係課】

農林水産課

海岸や河川の清掃活動が継続的に行われるよう、さらなる普及啓発に期待します。漂着ごみは、河川上流部、近隣自治体、海外からも流れ着いています。

清掃活動に関わる方の高齢化が進んでいるため、若者のボランティア体験へのサポートを期待します。また、啓発範囲を広げ、市民の他にもブルーツーリズムにボランティア（ビーチ清掃等）を組み込むなど、市外の人たちにも関心を持って清掃活動等に関われるような取組みが求められます。

市 市民 事業者

生活環境課
観光政策課

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

	【主な関係課】
<p>「小さな自然再生活動支援助成」を活用し、地域住民が主体となって、各地で様々な形の自然を守る活動が行われることを期待します。</p> <p>また、小さな自然再生への取組みは重要であり、活動をさらに促進するため、補助額の増額について検討してください。</p> <p>【小さな自然再生活動支援助成】 自然や生きもののための「小さな自然再生」に取り組む市民の活動を支援する市の補助制度。</p> <p style="text-align: center;">市 市民 事業者</p>	コウノトリ共生課
<p>コウノトリは現在、全国的に増加しています。これまでの野生復帰の取組みが挙げた成果を市民全員で再確認する一方、少数を保護し共生していくという観点から、次なる共生のステップに移るイメージの共有が求められます。</p> <p style="text-align: center;">市 市民 事業者</p>	コウノトリ共生課
<p>外来種問題について市民に正しく情報発信し、戦略的な対策を進めてください。市民が外来種について知る機会や駆除する機会が増えることを期待します。</p> <p>また、市が管理する施設等では積極的な外来種の駆除を求めます。</p> <p style="text-align: center;">市 市民</p>	コウノトリ共生課 農林水産課 都市整備課 建設課 各振興局地域振興課

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

新規

	【主な関係課】
<p>地域の祭りや行事などの情報が市民に届かず埋もれてしまっています。従来の広報誌による周知に加え、SNS等を活用した効果的な情報発信のあり方を検討してください。</p> <p style="text-align: center;">市 市民 事業者</p>	地域づくり課 文化・スポーツ振興課 観光政策課 秘書広報課
<p>地域の繋がりや伝統文化の学習は重要であるため、取組みを次の世代に繋いでください。</p> <p>住民がうまく伝統文化を継承している事例も捉えながら、どのようにすれば継続できるか考えながら伝統文化を守ってください。</p> <p style="text-align: center;">市 市民 事業者</p>	学校教育課 教育総務課 文化・スポーツ振興課
<p>市内外の様々な人々が地域の伝統行事や文化を知り、交流を深める機会を持つことで、伝統を守りながら、新しい伝統が作られていくことを期待します。</p> <p style="text-align: center;">市 市民 事業者</p>	文化・スポーツ振興課 地域づくり課 観光政策課 教育総務課 各振興局地域振興課

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

新規

子どもたちが継続して自然に触れることができる活動場所の確保とともに、活動を支えるリーダーの育成や、活動を支える体制の構築を期待します。

市 市民 事業者

【主な関係課】

地域づくり課
コウノトリ共生課
学校教育課

子どもの年齢に合わせながら身近な地域の自然について知ることのできる多様な機会を創出してください。

「出張！田んぼの学校」など生きもの調査は、地域の自然を知る絶好の機会です。様々な団体でさらに定着することを期待します。

【出張！田んぼの学校】

地域の子ども会（育成会）やPTA、農会などが行う自然体験学習を支援するため、NPO法人コウノトリ市民研究所と市が行う事業。地域に講師が赴いて、子どもたちと生きもの調査をします。

市 市民

コウノトリ共生課

豊岡出身の子どもたちがメッセンジャーとして豊岡の良さを発信できる風土を作っていくことで、活動の評価も高まり、関心の薄い子どもたちにも興味を持ってもらいやすくなります。市の内外向けを問わず、豊岡の良さを情報発信する際の協力や機会の創出等の支援が行われることを期待します。

市 市民 事業者

コウノトリ共生課
秘書広報課
学校教育課

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

さらなる「ゼロ・ウェイスト」へ向けて、どのような対策（現在「可燃」とされているプラスチック製品の分別を変更して「資源」とする等）が可能なのか検討してください。

【ゼロ・ウェイスト】

ゴミを出さないようにする取り組み。

市 市民 事業者

【主な関係課】

生活環境課

給水スポットの設置について使用状況や利用者の感想等の調査をし、情報発信を行ってください。公共施設だけでなく、事業所等への給水スポットの設置を促し、マイボトルの普及が進むことを期待します。

市 市民 事業者

生活環境課
学校教育課

「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」の対策状況の進捗と市の削減行動についての周知も引き続き進めてください。

また、プラスチック削減の規範となる取り組みを市民や事業者へ促す支援や体制づくりが求められます。

市 市民 事業者

生活環境課

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【主な関係課】

新規

国では、発電事業者に対するリサイクル関連の報告義務化や推進法の検討など、太陽光パネルのリサイクルや適正処理に関する制度設計が進められています。市所有の大規模発電所についても、稼働時期を考えると、2030年代から2040年代にかけて設備更新や廃棄処分時期を迎えることが予想されます。リサイクルや処分には多額の費用を要し、有害物質への適切な対応も不可欠であることから、設備の今後の取扱いについて早急に検討すべきと考えます。

(参考)

太陽光パネルの法定耐用年数は17年（発電効率は徐々に低下するがメンテナンスを施せば20～30年稼働可能。パワーコンディショナーは10～15年で交換が必要。）蓄電池は6年（10～15年稼働可能）
太陽光パネルには、鉛、カドミウム、ヒ素などの有害物質が含まれている場合があります、適正な処理が必要。

市 事業者

コウノトリ共生課

省エネ機器の導入や断熱技術の導入など、省エネ行動を各自行いつつ、様々な機会を利用して、省エネ行動に対する知見を広めてください。

また、豊岡市地球温暖化対策実行計画を推進して、脱炭素の目標を実現してください。

市 市民 事業者

コウノトリ共生課

高齢化が進む地域などでの相乗りタクシー、ノーマイカーデー、公共交通機関の利用推進などは、交通弱者の減少、交通インフラの維持などを目的とした市の施策であるとともに、CO₂削減につながります。市や事業者による支援、コミュニティでのイベント利用等でさらなる周知と利用者の増加に努めてください。

市 市民 事業者

コウノトリ共生課
都市整備課
地域づくり課
各振興局地域振興課

再生可能エネルギーの導入については、山林を切り開いてのメガソーラーの導入など環境破壊を伴うものではなく、既存の建造物を利用した太陽光発電等の環境負荷や景観へ配慮した再エネ導入が推進されることを求めます。

市 市民 事業者

コウノトリ共生課

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

<p>市内を訪れた観光客へ、また市外でのイベント等で、環境経済戦略に関してより積極的な PRを工夫してください。</p> <p>また、サステナブルツーリズムの更なる推進を図ってください。</p> <p>【サステナブルツーリズム】 訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、敬愛への影響に十分配慮した観光。</p> <p style="text-align: right;">市 事業者</p>	<p>【主な関係課】</p> <p>コウノトリ共生課 観光政策課 環境経済課</p>
<p>湿地整備等で受け入れている市外からのボランティアツアーを、豊岡演劇祭等のイベントでも受け入れを行う事で、豊岡の取組みをさらに深く知ってもらい、交流が深まることを期待します。</p> <p style="text-align: right;">市 市民</p>	<p>観光政策課</p>
<p>農産物・加工食品だけでなく、幅広い分野で、環境経済認定事業が継続していける努力・工夫をさらに期待します。</p> <p>環境経済認定事業に認定されるメリットとして、共同プロモーションの機会の創出や環境イベントへの出店等の後押しといった支援に取り組むことを期待します。</p> <p style="text-align: right;">市 市民 事業者</p>	<p>環境経済課</p>

(2) まとめ

第2次豊岡市環境基本計画の推進8年目にあたる2024年度の取組みについての評価は、「よくがんばりました」が1項目(目標像⑦)、「この調子でがんばろう」が8項目(目標像①③④⑤⑥⑧⑨⑩)、「もっとがんばろう」が1項目(目標像②)という結果でした。2023年度と比べて評価が上がったのは目標像⑦で、その逆に評価が下がったのは目標像②と⑧です。

目標像⑦の評価が上がった理由のひとつは、豊岡市立田鶴野小学校の児童が新潟県佐渡市を訪れ、地元の行谷小学校の児童とコウノトリやトキの野生復帰などについて互いに発表し、現地で生きもの調査を実施するといった交流学习の機会が増えたからです。環境審議会としては、こうした取組みのように、豊岡の子どもたちが自然に触れることのできる活動機会の確保とともに、その活動を支えるリーダーの育成などを提案しています。

一方、目標像②は2023年度から評価を落としました。その大きな理由は、有害鳥獣の生息範囲拡大に伴って、クマの出没が増え、安心して散策できない里山が増えているからです。このことを念頭に環境審議会では、豊岡市がクマの出没状況や駆除対策などの情報を随時発信するとともに、市民と事業者も行政と一体となって安全な生活環境を守るための働きかけを行って欲しいと考えています。

目標像⑧も2023年度から評価が下がりました。「クリーン但馬10万人大作戦」の参加人数が減少していることがその理由です。1990年から毎年実施されている清掃・美化活動ですが、その参加人数の動向を環境審議会としては注視していきたいと思えます。

環境審議会のなかに設置されている「生物多様性推進部会」は、豊岡市生物多様性地域戦略「短期戦略Ⅲ(2023~2027年度)」の取組みの進捗状況の把握と評価、今後の取組み方針の提言などを行っていますが、2025年度の特筆すべき活動として「外来種対策普及啓発冊子」の作成があげられます。生物多様性推進部会のこうした取組みを、環境報告書における目標像の評価とそれに基づく環境審議会の意見や提案に生かしていきます。

2026年3月

豊岡市環境審議会 会長 山室 敦嗣
副会長 西垣由佳子
委員 安藤有公子、飯田勇太郎、川見絵里香
木築 基弘、黒田 和真、島崎 卓也
田原 美穂、野世 英子、増原 直樹
水嶋 弘三、村田美津子、山下 正明
青柳 順子(～2025年10月末)

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所：〒668-8666 豊岡市中央町2番4号

電 話 番 号：21-9017(直)

F A X 番 号：24-7801

E - m a i l：kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：

